

「平成28年度 学校・園経営の重点」【学校教育係】

信頼される学校・園づくりのために

○知識・技能を活用する力を伸ばすための取組の充実

昨年度は、管内23校中16校が計画訪問に加え、要請訪問を実施していただきました。複数回要請訪問を実施していただいた学校もありました。

今年度も同様に計画訪問と要請訪問を関連させた研修をお願いします。その際、目指す児童生徒の姿につながる具体的な手だてとその検証の場を位置付け、組織的・継続的に取り組んでください。また、次のことに留意して、単元計画を立てたり、1単位時間の授業づくりをしたりしてください。

＜「活用する力」を伸ばすために＞

- 具体的にどのような資質・能力を伸ばしたい（身に付けさせたい）のか明確にする。
- 本時では、どのような知識・技能、考え方を活用させるのか明確にする。

＜考え、表現させる授業づくり＞

- 習得した知識・技能を活用させる場面を意図的に設定する。
- 児童生徒に目的意識をもたせ、既習事項と結び付けて主体的に考えさせたり、判断させたり、表現させたりする。



たくましく生きる力をはぐくむために

○確かな学力 「目標（めあて、ねらい）と振り返りの一体化」

右の表からも分かるように、目標の提示と振り返りの実施は年々よくなってきています。しかし、振り返りについては、目標の提示に比べると課題が残る結果となっています。

今年度は、特に授業の最後に目標（めあて、ねらい）に沿って振り返らせ、何を学んだのか自覚させるなど、児童生徒が1時間を通して目標を意識した学習を行うことができるようお願いいたします。そのためには教材研究を深め、1つ1つの活動の目的を明確にもつことが大切です。

「目標」の提示と「振り返り」

○本時の目標の提示【よく行っている】

	H25	H26	H27
小学校	48.5%	60.7%	74.6%
中学校	37.8%	45.7%	56.3%

○振り返りの実施【よく行っている】

	H25	H26	H27
小学校	26.7%	30.4%	47.4%
中学校	23.3%	25.1%	31.4%

（全国学力・学習状況調査より 群馬県）

○豊かな心 「明確な指導観に基づく『道徳の時間』の充実」

平成27年3月に学校教育法施行規則が改正され、「道徳」が「特別の教科 道徳」として位置付けられました。児童生徒がいじめ問題等に主体的に対処することの実効性のある力を育成していく上で、道徳教育が大きな役割を果たすことが求められているという背景があります。

道徳教育の要となる道徳の時間の目標は、道徳的実践力を育成することです。児童生徒一人一人が道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深められるように指導することが大切です。そのために、明確な指導観（価値観、児童生徒観、教材観）をもって指導することが必要となります。

- 価値観…ねらいとする道徳的価値を指導者がどのように考えるのか、学習指導要領解説等の記述を基に明確にします。
- 児童生徒観…ねらいとする道徳的価値について、児童生徒がどのような状況にあり、どのような児童生徒を育てたいのかを明確にします。
- 教材観…指導者の価値観、児童生徒観を基に教材（資料等）をどのように活用するかを明確にします。

その上で、道徳的価値について理解すること、自分との関わりで道徳的価値を捉えること、道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題を培うこと、この3つの事柄を取り入れた授業づくりをお願いします。

○健康な体 「計画的な食育の推進」

群馬県における児童生徒の健康課題の一つに、肥満傾向のある児童生徒の割合が全国平均に比べて高いことがあげられます。吾妻においても、肥満度20%以上の児童生徒の割合は小学校で平均10.5%、中学校で平均12.2%と全国平均に比べて高い実態があります。また、食生活において、気軽にコンビニを利用したり、外食したりする機会が増えており、栄養のとり方について正しく理解し、自己管理していく力が求められています。

食育基本法では、食育は生きる上での基本であり、知育・徳育・体育の基礎となるべきものと位置付けています。健康な心身をはぐくむためには、日々の健全な食生活が大切です。学校では、給食の時間や家庭科の時間を柱に、学級活動等において担任と栄養教諭・学校栄養職員、養護教諭等と連携した授業の実践や、給食の試食会、学校保健委員会での協議など、保護者や地域と連携した取組が行われています。児童生徒が健やかに成長し、将来においても健康で過ごせるよう、健全な食習慣の形成に向け、計画的に食育を推進することが大切です。そのためには、各学校において、食に関する学年別指導計画を整備し、全職員で共通理解を図った組織的・継続的な食育の推進をお願いします。学年別指導計画作成の手順は群馬県教育委員会のWebページをご覧ください。



たくましく生きる力の基礎をはぐくむために

○幼稚園教育の充実

幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期であり、その後の教育の基礎になると言われています。吾妻の幼稚園では、地域や園の特色を生かしつつ、幼児の実態把握を踏まえながら発達やねらいにふさわしい環境の構成に努めています。各歳児や個に応じて適切に環境を構成することで、探究心や思考力、表現力等に加えて感情や行動のコントロール、粘り強さ等のいわゆる非認知的能力をはぐくむことにつなげています。



その能力をはぐくむにあたり、幼児期の終わりまでに育ってほしい具体的な姿をイメージし、園全体で共有してほしいと思います。日頃から保育について振り返ったり、カンファレンスを行ったりして幼児理解に努め、日々の保育の改善を行うことはとても大切です。今後も幼児の思いを受け止め、幼児が安定して自己を発揮できる場面をつくるとともに、挑戦しようとする姿を励ますような援助をお願いします。